

参加者の活動紹介1 (KDDI株式会社 阿部博則様)



ハウス内センサー設置(万願寺甘とう)

2018年12月に舞鶴市役所様及び舞鶴工業高等専門学校様と連携協定を締結して、4年以上が経ちました。弊社は地域の課題解決に「つなぐチカラ」を役立てることをサステナブルアクションとして掲げており、この協定でも弊社が共創可能な領域として、産業の活性化、防災そしてスマートシティ分野での連携をターゲットといたしました。その後、浸水被害の一要因である志楽川の水位予測環境構築、京ブランド産品である万願寺甘とうの栽培スマート化、京都大学芦生研究林の保全PRを目的とした舞鶴高専様によるVR動画製作の支援、「北近畿 未来の海プロジェクト」の一課題である漁獲高予測による漁業スマート化、そして雇用創出やDX人材育成のための拠点開設など、KDDIグループ全体で活動領域の拡大を進めております。



志楽川上流に設置された水位計



京都大学でのVR展示

これら取り組みの先に、スマートでワクワクする舞鶴市や北近畿の姿が見えてくると考えていますので、私たちはこの地域の成長発展に引き続き貢献してまいります。

書評 第2回 (舞鶴高専 内海康雄校長)

書名 新しい地域をつくる 持続的農村発展論
 著者名 小田切徳美
 出版社名 岩波書店
 出版年月 2022年2月

多くの類書が事例紹介とそれらの分析に力を注いでいる中で、本書は資本主義的な見方、人材育成、地域内経済循環分析などを扱い、幅広い視野と具体的で定量的な視点を持つ手法を説明している。政策・施策に結び付くことが可能という期待を与えてくれる。コラムも読んでいて楽しい。

- 第1章 新しい地域発展理論
- 第2章 新しい人材をつくる
- 第3章 新しい「しごと」をつくる
- 第4章 新しい地域内経済循環をつくる
- 第5章 新しいコミュニティをつくる
- 第6章 新しい地域資源利用・管理をつくる
- 第7章 新しい人の流れをつくる
- 第8章 新しい再生プロセスをつくる
- 第9章 新しい政策をつくる
- 第10章 新しい国土をつくる
- 終章 新しい農村を展望する 一本書の総括

参加者の活動紹介 2 (テックス株式会社 鈴木直康様)

USRS 新たなニーズの取り込み

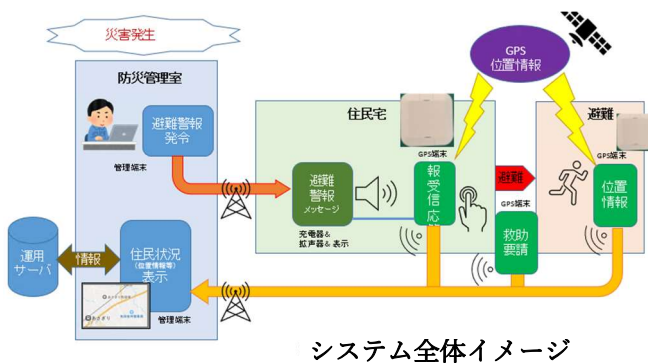
山間部や離島の過疎地域における、独居・老人世帯の防災無線通知対応

■ ニーズ

- ①防災無線放送が聞こえにくい。
- ②防災ラジオ、防災無線放送はリアルタイムで聞く必要がある。
- ③耳が遠い老人は、聞き取れない・聞き違いなどが発生する。
- ④避難行動時に、避難場所に到着したか、途中で遭難しているかわからない。
- ⑤過疎地でのランニングコスト、定期保守が困難。

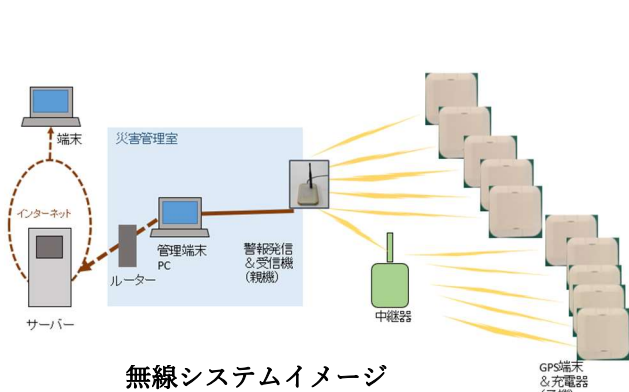
■ 解決案

- ・防災無線の出力を、USRS にて送信する。
- ・老人家庭には、文字情報画面付きの受信端末 (右図) を設置する。
- ・文字情報で、リアルタイムで聞けなかった場合も、文字情報とLEDで知らせる。
- ・受信した旨を、ボタンにて回答し、役場は受信した事を確認できる。
- ・救助が必要な場合は、ボタンにて回答し、役場に通知できる。



役場の防災管理室で防災無線から外部出力を使用できる場合は、USRS-GWシステムが自動的に受信端末へ避難・警報メッセージを送信します。

手動の場合は、タブレットなどを使用し、タッチパネルで警報の送信・取り消し・住民の避難状況・住民の位置情報を表示し、救助が必要な方の位置情報を地図上で確認することができます。



通信にフォーカスして、機器の構成を説明します。GPS端末は、文字情報付き端末に設置している時は、充電を行いながら受信機として動作し、クレイドルから取り外すと、GPS送信機になります。

■ 機器の保守について

過疎自治体負担軽減の為、定期メンテナンスで故障自動検出→交換を行います。

各通信機器は、未使用時でも、12時間に1回程度の試験送信を行い、通知が届かない事により故障を検知します。役場の防災対策担当は、故障個所の番号・位置がわかるため、交換部品を在庫と交換し、交換後は在庫を補充することができます。

今後も、各自治体などのニーズを取込みます。